

2021 年度

### 賛助会の依頼

特定非営利活動法人 SAJA (NPO 法人サヤ) の目的にご賛同いただける方は、是非賛助会にご入会ください。当法人の目的は、在宅の精神障害者に対して、地域生活支援に関する事業を行い、併せて障害者の自立と社会経済活動への参加を図ることを通じて、精神保健福祉の増進に寄与することです。

主な事業は①就労継続支援 B 型事業所の運営

- ②精神保健福祉に関する知識の普及啓発活動
- ③障害者福祉関係団体との交流及び地域福祉組織化活動
- ④研修事業等                      ⑤指定相談支援事業所の運営

賛助会年会費は 2,000 円です。

ご入会いただいた方にはたんぽぽの機関紙「LIFE」(年 2 回)をお届けします。

何卒ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

会費のお支払方法…①郵便振込(申し訳ありませんが、振込手数料のご負担をお願いします。)

口座番号：01680-5-57087      加入者名：特定非営利活動法人サヤ

②当事業所窓口にて支払い

「利用者主体」とか「当事者中心」の掛け声とは裏腹に、従来型の方法論にしがみつけない多忙な日常。これがソーシャルワークだと信じて疑わず、疲弊したのは自分の力の無さのせいだと自らを責める毎日。優生思想を批判しながらそこに通じる道をひたすら歩いている私たち。

「何かがおかしい」「どこか変」「どうして」と、その違和感に気づきはじめてあなたに、そして人間の尊厳や社会正義、人々のあらゆる抑圧からの解放を願うあなたにお薦めしたい 3 冊です。

(理事長 西谷清美)



LIBRARY

### ★共同募金で椅子がきました★

NHK 歳末たすけあい赤い羽根共同募金に申請し、新しいパイプ椅子を 20 脚購入いたしました。早速みんなで使用しており、ふかふかの座り心地が好評です。大切に使用していきたいと思います。ありがとうございました!!

編集後記

販売先が少ない…!と記事にしましたが、毎週火曜日午前中のゆめタウン丸亀の販売では、リピーターのお客様に恵まれ、布マスク・クッキー・雑貨等がよく売れるようになったのです!!きっかけは、不織布マスク不足の中、高クオリティな布マスクを販売できたことかと推測していますが、クッキーや雑貨も知ってもらえる機会となり、なんだか以前より販売チームのモチベーションも上がっています。リピーターの方のお顔、お求めの商品を憶えることや、会話を発展させること等、販売ってすごいコミュニケーションの場だな~と思い、勉強中です。(山崎)

# LIFE

第 69 号 2021 年 6 月 1 日発行

特定非営利活動法人 SAJA (サヤ)

就労継続支援 B 型事業所 たんぽぽ

相談支援事業所 POPO

〒763-0066 丸亀市天瀬町 1-2-31

TEL: 0877-22-2840

HP tanpopo-saja.com

### 福祉人のあがき

## 「大丈夫なのか?! 福祉職!!」

理事長 西谷清美

現在、私たちの国の福祉施策、とりわけ高齢者分野、障害者分野においては、利用者と福祉事業者との「契約」によってサービスが提供される仕組みになっています。「契約」と言うと、例えば携帯電話の利用契約やアパートの賃貸契約等を含めた消費生活、あるいは経済活動の殆どの行為が、この「契約」によって成立しています。まさに私たちは「契約社会」に生きているわけです。一方、社会福祉でいう「契約」の概念は、市場経済活動における等価交換を確約、実行するという以上の意味を含んでいます。つまり、人の手による福祉援助やサービスは、商品価値としてではなく、人間の尊厳への重視と人間相互の協働性として表現されるものであり、したがって利用者の福祉援助やサービスへのニーズとは、ある商品を購入する際の顧客の要求や申し出とは性格が異なるということです。利用者ニーズとは、利用者が自らの福祉を追求する際の動機であると同時に、利用者と援助者が援助を土台にした関わり合いを通じて相互に成長できることが、その前提になければなりません。そのような意味で、利用者の声に真摯に向き合うことは、そのまま利用者の幸福追求という当然の権利を擁護することでもあります。

要するに、福祉援助は「商品の受け渡し」とは異なるということです。コンビニで 100 円のミネラルウォーターを購入するのは意味合いが異なるわけです。市場の世界では、価格と商品が等価であることが望まれます。あまり良くない物を高額で購入した際には損をした感情が生まれますし、良い物を安く入手できれば得た気持ちにもなります。市場の世界では競争によって利益を追求しますから、等価交換のバランス、損得のバランスが全てなのです。さらに、これら市場経済秩序は知らぬ間に市民である私たちの意識の奥に刷り込まれ、損得で物事を考える習慣がすっかり身につけてしまっているようですが、そのような損得感情は社会福祉の世界には持ち込んでもらいたくないと思います。例えば、聴覚障害者に手話通訳がついていることを取り上げて、聴覚障害者が得ているとは考えないでしょう。何故なら聴覚障害を持つ人々たちにとって手話通訳は利益ではないからです。では、大型ショッピングモールの駐車場にある障害者駐車スペースはどうでしょう。それらは、モールの入り口付近にスペースが設けられ、どんなに混雑していても障害をもっていない人は駐車することができません。障害者は符をしているのでしょうか。果たして障害者にとって障害者駐車スペースは利益なのでしょうか。はたまた、車いすを使用しなければならぬ障害をもつ人々にとってスロープは利益なのでしょうか。目の不自由な方にとって点字は利益なのでしょうか。少し考えてみてください。障害をその個人と社会環境との交互作用の結果としてとらえる国際的な考え方からすると、それらは決して利益などではなく、合理的配慮の範疇ということになります。専門的には、これらの考え方を総じて「福祉サービスの脱市場化」「脱商品化」等と言い、社会福祉の原点に通じる考え方です。このように社会福祉には、社会福祉そのものに価値があり、そこには確かな形で福祉援助の視点があるのです。(次ページへ続く)



さて、話題を日本の社会福祉の今後に移してみたいと思います。

2000年に改正された社会福祉法を概観すると、今後の社会福祉の方向性を読み取ることができます。その要点は二つあります。一つ目は、共生社会(インクルーシブな社会)の実現を目指し、公助から互助、そして自助へという福祉供給の枠組みの転換です。つまりは公的財源ではなく、地域住民の地域力や助け合いの力を結集して地域での福祉を展開しようということです。そして二つ目は、サービス上では介護と看護を統合し、高齢者に対しても障害者に対しても同じ制度的枠組みから包括的に支援を提供しようということです。

このように紹介すると、わが国では一見素晴らしい福祉施策が展開されるように思われるかもしれませんが、ここではあえて批判的に考えてみたいと思います。

まず一つ目の要点は、国民の福祉に誰が責任を持つのかという問いに対して、あなた自身が責任を持ちなさい、その努力をしなさいと言っているわけです。いわゆる自己責任論です。「地域で孤立し、生活困難の状態を招いたのはあなたの努力が不足していたから、その責任を負いなさい」と言わんばかりです。続く二つ目の要点は、分野や領域の専門性にこだわらず、一つの箱から何事にも対処できる方法を取り出し、物事に当たりなさいということです。これは専門性よりも生産性に焦点を当てた考え方であり、市民参加を立て看板に、ある程度専門的なサービスや支援についてもボランティアや近隣住民に委任しようという安上がりで危険な発想であると言わざるを得ません。福祉職には、これからの社会福祉の方向性を理解する礎として、この二つの要点を心の隅に置いておいてもらいたいと思います。

わが国は、団塊(だんかい)の世代の方々が後期高齢期を迎え、2025年には認知症と診断される高齢者が700万人を超えるという推計が発表されています。さらに、現在私たち日本人の多くが病院で最期を迎えています。今後は政府の病床削減策に伴い、在宅での看取りが課題になってきます。訪問看護ステーションによる在宅末期緩和ケアと介護支援事業所によるホームヘルプとの連携と協働によって医療と介護を統合し、合理的かつ効率的なサービスを提供しようという計画です。

先ほど触れましたが、このような社会福祉の動向に、研究者や、専門家からは、国家が「共生社会」や「地域力」の美名のもとに理想的な社会福祉から撤退してしまうのではないかと懸念と、専門性よりも効率性、生産性に力点を置いた安上がりな福祉施策に対する危惧が表明されています。

いずれにしても、福祉職一人ひとりの社会福祉に対する考え方や援助の際の視点や態度、そしてそれをベースにした利用者との関係の質によって、その真価が問われるものと考えます。特に、支援者と呼ばれる者には、個々の人々の生活問題や福祉課題を広く社会問題としてとらえる「知」と、他者の身の上起こっていることをわが身に重ねて想像できる「感性」が必要不可欠です。障害福祉という窓から私たちの社会の課題を発見し、そのこととどのようにかわり合えるかを常日頃から探究していくことが極めて重要なことと考えます。

市場経済秩序にしっかりと乗ってしまった現在の我が国の障害者福祉施策の行方を案じながら、福祉人として「あがき」続けたいと思います。大丈夫なのか?!福祉職!!

塩田さん  
ご挨拶

4月からスタッフとして入社しました、塩田文音です!好きなものは美味しいものとゲームで、最近はビールに挑戦中です!おすすめのビールがありましたら、是非、塩田までお願いします~!日本酒や香川の銘酒等のおすすめもお待ちしております(n・ω・n)

さて、2020年9月に実習生としてたんぼぼではお世話になりました。皆様のおかげで、新しい発見や自身を振り返ることで多くの学びを得ることが出来ました。今後は学生ではなくいち社会人として、たんぼぼでの日々の仕事やかかわりを通して研鑽を積み、自身が成長していけるように頑張ります。コロナウイルスの影響で慌ただしい毎日ですが、笑顔で心がけて頑張りますのでどうぞよろしくお願いします!

例年、年度初めにその年度の活動指針をご紹介するというのが慣例になっていますので、今号でも以下の通り「2021年度 NPO 法人サヤ活動指針」の全文を掲載します。

2021年度のテーマ “さり気なくさやかに”

「支援者としての信念」

理事長 西谷 清美

「専門性」は専門家の隠れ家である。「専門性」を持ち出すことによって専門家は、周辺の関係者との違いを鮮明にするだけでなく、周辺から権威の証として認識されることを期待する。専門家でなければ、その分野、領域における価値や方法を説明することはできないと表明し、「専門性」の語り部となって権威者の増産に奔走する。

そして「専門性」は、次第に隠れ家ではなく牢屋として専門家の自由を奪うことになる。不自由なあまり、牢屋のごとき同職種のボスを作り、その手下に収まることで安心を得ようとする専門家もいる。牢屋の中での合言葉はやはり「専門性」であり、それが中間の証となる。牢屋の外の世界を見たがる者は、似非専門家であるとして誹謗や批判的となる。こうなると最早そこには、例えば支援を必要とする人々の立場や事情、権利等への配慮や関心もなく、またその人々の声や姿に傾きすることもない。「専門性」を前面に押し出す(ひとりよがり)ことによるのみ存在し得る専門家と化してしまうのである。

そうならないためには、「専門性」という牢屋の中で物事を考えることからの脱却と、私たちの「普通」や「日常」を、私たちの支援を必要とする人々の「普通」や「日常」と同じにすること、そして目の前のその人の痛みを想像してみることで、例えば “この人の立場なら、私も同じように感じるかも” と、さり気なくさやかに思えること、そしてそれらが、協働とか連帯の真の意味であることを理解し実感し、実践すること、等々がとりあえず重要である。

分野や領域等が有する専門性にこだわり続け、目の前の人を特別な人間に仕立て上げた挙句、周辺には専門的かつ特別な方法でしか対処できないと思わせることで、多くの人々を壁の向こう側に閉じ込めてきた私たちの歴史の事実から目を背けてはならない。

たんぼぼの今

冬季、大人気商品だった焼き芋販売が終わり、春から夏にかけての工賃を向上させるために、どのような方針で生産活動を展開していくかという議題でメンバー・スタッフ合同のたんぼぼ会議を行いました。

去年から引き続き考えていることではありますが、コロナ禍ということもあり、今のたんぼぼには例年のようにバザー販売に依存しない形で収入を得る方法が必要です。現在の課題は、雑貨やクッキーを製造する人員や時間があるのに、販売先が少ないことです。そこで提案として挙がったものが、クッキーの委託販売先の新規開拓、さらに移動販売先の開拓です。たんぼぼでは、各人が得意とする作業に従事しているので、クッキーや雑貨の製造を得意とする方、また、販売・接客に向いている方、さらには営業を得意とする方もいます。営業チームの活躍もあり、5月末から新たに「直売所たどつシルバ」さんにクッキーの販売をさせていただいています。また、普通寺養護学校への出張販売も、毎月第1火曜日・第4木曜日に決定しました。

新たな作業が増えると、挑戦する機会が増え、作業をしていく中で意外と得意・好きな分野が見つかることもあり、今回も、新たなメンバーで販売へ行けることを楽しみにしています。コロナ禍で、思うように動けない煩わしさも感じますが、できないことに目を向けるのではなく自由な発想力を駆使し、地域へ届けるためにはどうすればよいかを考えながら活動しています。(精神保健福祉士 山崎春菜)

